

2023年3月19日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第65巻第48号(通算3330号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

かみさま ひととも  
神様がすべての人と共におられる  
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

丈夫な人には医者はいらないが、具合の悪い人には、必要なのだ。実に、私が来たのは、「正統派の人」を招くためではなく、「道をふみはずした者」を招くためである。(マルコによる福音書2:17)

じゅうなんせつ  
**レント(受難節)**  
だい しゅうじつれいはい  
**第4主日礼拝**

れいはい ちゅうけいはいしん  
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも  
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ  
前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しょう せつ  
招きの詞 エレミヤ書 31章 33b-34節

さんび ばん にな じゅうじか せつ  
賛美歌 21-305番「イエスの担った十字架は」(1-4節) (©JASRAC)

しょうとう ことば  
消灯の詞

さんび ばん おか うえ しゅう じゅうじか ちよさくけんしやうめつ  
賛美歌 21-303番「丘の上の主の十字架」(©著作権消滅)

せいし しんと てがみ しょう せつ  
聖書 コリントの信徒への手紙II 3章 1-18節

いの  
お祈り

さんび ばん せいれい きやうだんさんびかいいんかい  
賛美歌 21-406番「聖霊ゆたかに」(©教団讃美歌委員会)

メッセージ 「命に向き直る時」 牛田 匡 牧師

さんび ばん しゅう のぞ ちよさくけんしやうめつ  
賛美歌 21-531番「主イエスこそわが望み」(©著作権消滅)

しゅう いの ばん てん わたし ちち きやうだんさんびかいていいんかい  
主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

ささげもの  
献げ物 (\*)

は ばん かみ めぐ う せつ  
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅう うしだ ただし ぼくし  
祝福 牛田 匡 牧師

こう ばん ちよさくけんしやうめつ  
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほう ページ さんしやう  
報告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 エレミヤ書 31章 33b-34節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>33</sup> 私は、私の律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心に書き記す。私は彼らの神となり、彼らは私の民となる。

<sup>34</sup> もはや彼らは、隣人や兄弟の間で、「主を知れ」と言って教え合うことはない。小さな者から大きな者に至るまで、彼らは皆、私を知るからである——主の仰せ。

消灯の詞 (参照：ヨハネによる福音書 12章 13, 15節)

司式者 イエス様がエルサレムに入られた時、大歓迎を受けました。

みんな 「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように」

司式者 その数日後には、イエス様は罪がないのに捕らえられました。

みんな 力ある人々は言いました。「十字架につける」

聖書 コリントの信徒への手紙Ⅱ 3章 1-18節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>1</sup> 私たちは、またしても自分を推薦し始めているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがた宛ての推薦状、あるいはあなたがたからの推薦状が、私たちに必要なのでしょうか。<sup>2</sup> 私たちの推薦状は、あなたがた自身です。それは、私たちの心に記されていて、すべての人に知られ、また読まれています。<sup>3</sup> あなたがたは、私たちが書いたキリストの手紙であって、墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人間の心の板に記されたものであることは、明らかです。

<sup>4</sup> 私たちはキリストによって、このような確信を神に対して持っています。<sup>5</sup> 何事かを自分のしたことと考える資格は、私たちにはありません。私たちの資格は神からのものです。<sup>6</sup> 神は私たちに、新しい契約に仕える資格を与えてくださいました。文字ではなく霊に仕える資格です。文字は殺し、霊は生かします。

<sup>7</sup> 石に文字で刻まれた死をもたらす務めさえ栄光に包まれて、モーセの顔に輝くつかの間の栄光のために、イスラエルの子らはその顔を見つめることができなかつたとすれば、<sup>8</sup> まして、霊に仕える務めは、なおさら、栄光に包まれているはずではありませんか。<sup>9</sup> 人を罪に定める務めに栄光があったとすれば、人を義とする務めは、なおさら、栄光に満ち溢れているからです。<sup>10</sup> 事実、かつて栄光を受けたものは、この場合、はるかに優れた栄光の前に、栄光を失ったのです。<sup>11</sup> やがて消え去るものが栄光を帯びていたのなら、永続するものは、なおさら、栄光に包まれているはずだからです。

<sup>12</sup> このような希望を抱いているので、私たちは堂々と振る舞い、<sup>13</sup> モーセが、やがて消え去るものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、顔に覆いを掛けたようなことはしません。<sup>14</sup> 彼らの心はかたくなにされたのです。今日に至るまで、古い契約が朗読されるときには、同じ覆いが除かれずに掛かったままです。それはキリストにあって取り除かれるものだからです。<sup>15</sup> 実際、今日に至るまでモーセの書が朗読されるときは、いつでも彼らの心には覆いが掛かっています。<sup>16</sup> しかし、人が主に向くならば、覆いは取り去られます。<sup>17</sup> 主は霊です。そして、主の霊のあるところには自由があります。<sup>18</sup> 私たちは皆、顔の覆いを除かれて、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに変えられていきます。これは主の霊の働きによるのです。

「岩を打つ。水が出る。」より

岡嶋千宙伝道師

聖書 出エジプト記 17章 1-7節

「出エジプト記」全体を眺めてみると、書の前半、今回の場面に至るまでの物語では水が溢れていることに気づかされる。ナイル川の水、ミディアン地方の井戸の水、ナイル川から派生する水路の水、葦の海の水、雨や雹に姿を変えた水、さらにはその雨や雹が地上に降りて作った水溜まりの水にいたるまで。変幻自在に姿を変え、あらゆるところに姿を現す水は、時に人を癒やし、清め、匿い、人にとっての休息の場、出会いの場となる。かと思えば、全く逆の性格を見せることも。人の生活必需品を破壊し、人に危害を加える生き物や物質を産み出したり、さらには、人を死に至らせることも。そんな水が、岩から出てくる。杖によって叩かれた岩から。人々の渴きを癒やし、命を繋ぎ止める飲み水として。流れるものと留まるもの。柔らかいものと硬いもの。杖と岩と水。ほとんど共通点のない3つが交わったところに、人々に救いをもたらす状況が整えられた。

わたしたちは、気づいていないだけなのかもしれない。「水が欲しいなら、杖で岩を叩けばよい」なんて、いわゆる「ふつうの感覚」では、誰も思いつかない。にもかかわらず、そこに奇跡は訪れた。いや、奇跡はすでにそこにあった。わたしたちが気づかないだけで、だからこそ、神は気づいてほしいと願い、この奇跡を人々の前に示したのではないだろうか。「とても良い」世界の中で、その世界に生きる一つの存在であるわたしたち一人一人が、この世界のただ中にすでに備えられている、神の奇跡に気づいていく。

水と言えば、ヨハネ福音書のイエスは水と共にある。婚礼の場で水をぶどう酒に変えたり（ヨハネ福音書2章）、サマリアの町にある井戸のそばで外国の女性と語り合ったり（同4章）。そのイエスは、自分自身を「生きた水」（同4:10）と呼んでいた。さらに、自分を受け入れ信じた人の内に「生きた水が川となって流れる」（同7:38）とも語っている。もう一度「出エジプト記」に戻って、今回の箇所をよーく読んでみると、モーセが杖で岩を叩き、その岩から水が出てきたあと、人々が実際にその水を飲んだ、とは記されていない。もちろん、飲んだ後に、どんな反応を示したかについても。この欠落、聖書の無言は、逆に、何も伝えないからこそ、わたしたちに強く語りかけているように思える。あなたは、その水を飲みますか？ 生きた水であるイエスを受け入れますか？ そして、その水、イエスを受け入れたあと、どう生きていますか？ どう生きていきますか？ すぐそこにある神の奇跡に、気づいていますか？

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

YouTube



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 3月12日 受難節第3主日礼拝

主日礼拝出席 大人3名 中継動画再生数11回  
献金 大人4,000円 感謝

◎次週 2023年3月26日(日) 受難節第5主日礼拝

(今年の「レント」(受難節・四旬節)は2/22~4/8です。レントの期間は、イエス様の生涯や十字架の意味、イエス様に従うとはどういうことかを考える時です)

招きの詞 詩編 54編 6節

聖書 マタイによる福音書 26章 14-16節

メッセージ 「120万円の命」水谷憲牧師

賛美歌 21-206番(©讚美歌委)、21-298番(©編集委)、21-432番(©P.D.)、

礼拝はインターネットで中継いたします。礼拝後11時半頃より、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行います。どなたでもご参加ください。

◎お知らせ

・大阪府の新型コロナ警戒信号は「緑色」に変更され、マスクの着用も個人の判断に任せられるようになりました。引き続き感染症予防には留意しながら、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。中継録画のメッセージ部分のみをカットした動画を、YouTubeでご覧いただくことも可能です。

・3月21日(火)「国際人種差別撤廃デー」の19時~20時半にかけて、マイノリティ宣教センター主催「3.21.オンライン集会 『わたしたちだけのときは』から ~国際人種差別撤廃デー合同祈禱会」が開催されます。プログラムは、①国際人種差別撤廃デーについてのお話、②朗読

「わたしたちだけのときは」(デイビッド・アレキサンダー・ロバートソン文  
ジェリー・フレット絵、横山和江訳)

③各地からの声、④祈りの時間 です。参加費は無料です。完全オンラインの集会ですので、参加ご希望の方は、前日の3/20までに、下記のURLまたは

<http://onl.bz/my5nkNB>

QRコードからお申し込みください。



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
3/26	水谷牧師	誕生者祝福式・おにぎり支援
4/2	岡嶋伝道師	教会を考える会
4/9	牛田牧師	イースター礼拝・ユーカーリスト
4/16	水谷牧師	(第二好意の庭・感謝祝福式・牛田) (13時~)教会定期総会

1960年3月21日、南アフリカで人種隔離政策に抗議し、義務付けられていた身分証を持たずに行進をした人びとが、警官から発砲され殺害されました。その発砲によって殺害されたのは69人、負傷者はその3倍。この出来事によって友人、同僚、家族を失った人びとの悲嘆の日が、3.21.です。南アフリカでおこった人種主義への抗いを制圧する暴力は、今なお続く、マイノリティへの暴力とつながっています。当時、南アフリカでは、18歳以上の男性黒人に指紋や雇用主が記載された身分証を常時携帯することが義務付けられました。女性たちには当初この身分証すら発行されていませんでした。この日から63年、日本に住む外国人に対する排外的で冷酷な政策が続いています。憎悪、敵意によるヘイトスピーチは止まず、精神的、肉体的虐待は外国人をターゲットに続けられ、ヘイトクライムが起こっています。国際人種差別撤廃デーは、南アフリカでの人種隔離政策への抗議行動とそれを制圧しようとする権力との闘いを思い起こし、わたしたちの身近でも起こっている人種差別に抗い、わたしたちが生活している場で、NO RACISMの声をあげ、実践へと促されてゆく祈りと決意の日になりたいと思います。

**3.21.をNO RACISMの祈りの日に**  
教会、地区、グループで、この日を覚える集会・プログラムをもちませんか?  
マイノリティ宣教センターは、3.21.をそれぞれのキリスト教団体での人種差別撤廃を求める特別な祈りの日とすることを提案します。 info@cmim.jp